

1. 研究課題名：

モンゴルの永久凍土地帯における脆弱性評価  
及び適応策の提言に関する研究



2. 研究代表者氏名及び所属：

王勤学（(独)国立環境研究所 地域環境研究センター）

3. 研究実施期間：平成 24～26 年度

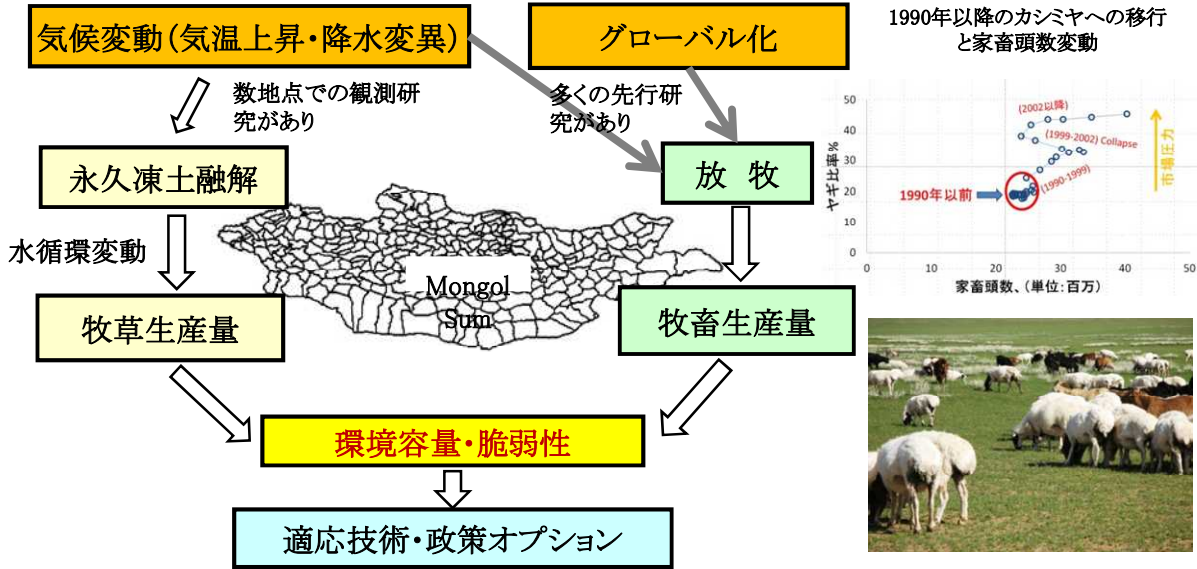
4. 研究の趣旨・概要

モンゴルでは温暖化の影響による永久凍土の融解が顕在化し、それによって草原の乾燥化や砂漠化が進み、草地生産量や牧畜生産量にも影響を及ぼすと考えられる。既存の研究では、永久凍土の融解による水循環の変動および牧草・牧畜生産量との関係が解明されていない。本研究では、科学的なデータに基づいて永久凍土の融解及びそれに伴う陸域生態系の脆弱性を明らかにすると共に、地域別の環境容量と牧畜経済の持続性を維持できる頑強な適応策の提言を行う。得られた情報や研究成果については、国連環境計画（UNEP）のアジア太平洋地域適応ネットワーク（APAN）等を通じて他の地域との共有を図ると同時に、両国の政府関係者や政策決定者に向けて発信する。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 早期観測ネットワークによる永久凍土融解の検出及び脆弱性評価  
( (独)国立環境研究所 )
- ② 気候変動に対する環境容量・適応策評価システムの開発と適応策の提言  
( 慶應義塾大学 )

# E-1203 モンゴルの永久凍土地帯における脆弱性評価及び適応策の提言に関する研究



## 研究内容 サブテーマ構成

### 早期観測ネットワーク



地上観測システムによるデータ収集(モンゴル科学院などと連携)



衛星観測システムによるデータ収集(中国科学院などと連携)

サブテーマ1 早期観測ネットワークによる永久凍土融解の検出及び脆弱性評価 (国環研)  
サブテーマ2 気候変動に対する環境容量・適応策評価システムの開発と適応策の提言 (慶応大)

